

＜冬季教育講演会及びコンサートの感想報告＞

去る1月26日(土曜日)、大阪府養護教育研究会主催による「冬季教育講演会及びコンサート」が、たかつガーデンにて開催されました。

◎教育講演会 I 部は、野尻千穂子さんの講演「命の花、咲かそ！」

野尻千穂子さんが車いすで舞台に上られると、不思議な緊張感に包まれました。野尻さんご本人の体験をもとにした話が始まりました。明るく澄み渡る声が会場にひろがると、参加者はその世界に引き込まれるように聴き入りはじめました。「生き様が言霊になって伝わってくる。」そんな迫力を感じたようです。11才の時、突然の歩行障害、手術の下半身麻痺、福祉医療が不十分な時代の治療の日々、トイレトレーニング、出産から子育ての喜びと感謝等々の話に、会場にはハンカチで涙を拭う様子が多く見受けられました。

かけがえのない命の贈り物である娘さんへの想い、周りの中傷に堪えて大きく広い愛情で千穂子さんを支え続け来られたご両親への感謝の言葉にも深く感銘を受けました。

「命のポスト」のボランティア活動も長く続けておられ、与えられた小さな一つ一つの命を守り育てることの大切さを、こころに深く届けていただきました。

◎コンサートは、リピート山中さんのこころの歌メッセージ「いのちのうた」

リピート山中さんのフォークギターの引き語り歌が始まりました。金色の頭髪とふっくらした体格からは、予想を超えた(?)ユーモアと愛情が織り込まれた歌詞とメロディーが会場に響きました。

兄妹、家族のそこはかとなない情愛を描いた「トンカツの歌」、子どものこころ声を聴く「我が家のハルウララ」動物とのこころの支え合いを紡いだ「ワンダフルパートナー」等、リピート山中さんの人柄が滲み出る曲を楽しみました。最後にはギターの弦が切れるハプニングもありましたが、リピート山中さんのアカペラの歌声が会場に響きわたり、参加者の手拍子や歌声も加わって、より親密で和やかにフィナーレを迎えることができました。



◎教育講演会Ⅱ部は、上甲晃さんの講演「志は愛」

元松下政経塾の塾頭として、多くの青年の指導に携わってこられた体験をもとに、日本の将来への思いや志について熱く語っていただきました。松下幸之助氏の後ろ姿に学び、

日本の百年先を創造できる指導者をつくることをめざして、実践を重ねてられています。人を指導して学んだことから、「人を変えることはむずかしい。まず、自分を変えよう。」と、トイレの清掃、履物を揃える等まず自らが率先して実践し、「一歩前」気持ちと行動を一致させることの大切さを力説されました。

松下電器株式会社を依願退職した後、青年塾を立ち上げ、「人のために役立つ志を持とう。」と日本全国で研修、研鑽に励んでおられます。また、日々1300字の記録を書き連ねた「デイリーメッセージ」は、6000日を超えたとのこと、驚嘆するばかりです。

日本人がこころの面で世界に誇れる社会になるために、私たち大人一人ひとりがその責任を自覚し、行動することの教えをいただきました。



参加者のアンケートからは、「命の大切さを再確認した貴重な一日となりました。」「人生のすばらしさに感動、明日からの教育のエネルギーになりました。」「こころに響く歌、もっと聴きたかったです。」「教師1年目ですが、教師として人間としてどうあるべきか、何か見えたような気がしました」「また、来年もこんな企画があれば参加したい。」等々、多くの方々から感動と感謝の言葉をいただきました。

教育講演会及びコンサートの共通のテーマは、「この世に無駄な人は、誰一人いない。」ということだったと感じています。お互いの存在の大切さを確かめ合い、支え合って生きて行くことの大切さを伝えていただく貴重な機会になりました。講演や歌でこころに響くメッセージを届けて下さった3人の方々、そして、参加下さった皆様に深く感謝しています。次の世代の子どもたちのために、それぞれができること積み重ねていきたいです。

記：大島昇（大阪府養護教育研究会書記）